

本年も良い年でありますように...

昨年中は並々ならぬご厚情を賜り誠にありがとうございました。

おかげさまで良き新年を迎えることができ、新たな気持ちで邁進して参りたいと思っております。本年もご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

やしま呉服店 スタッフ一同

印傳

印傳とは鹿革に漆で柄付けを施した皮工芸品です。その歴史は奈良時代までさかのぼり、戦国時代の武将達の鎧や兜などの武具の装飾にも愛用されました。国の伝統的工芸品にも指定されている甲州印傳は、今から400余年前に四方を山に囲まれた甲州(山梨)で完成されました。400年の年月を越えて現代にも伝統の技は脈々と受け継がれています。鹿革の特徴には美しさとしなやかさに加えて、軽さ・丈夫さ・通気性の良さなどが挙げられます。そこに日本独特の風合いのある漆がのせられた印傳は、日本が誇る工芸品であるとともに、現代人が求める機能性と美しさを兼ね備えています。



半衿の歴史

半衿とは長襦袢・半襦袢の衿に汚れを防ぐことと装飾を兼ねてかける衿のことです。

江戸初期においては小袖に掛け衿(共衿)をかけていませんでしたが、中期にかかる頃から小袖に掛け衿をかけるようになり、江戸末期には、これが本衿に対して丈が短いということから半衿とも呼ばれました。襦袢が武家や町人などの民衆に用いられるようになってから、半衿も襦袢にかけるようになりました。

明治・大正は半衿の装飾交果が存分に発揮された時代でした。着物の色・柄がエセ味であった為、半衿に金糸・銀糸または色糸で刺繍を施した贅沢なものが作られました。そして、この半衿を多く見えるように着装しました。しかし第2次世界大戦中に奢侈禁令によって刺繍が用いられなくなり、淡色の無地になりました。また戦後は衿元を上方で重ね合わせて着装するようになり、半衿は細く少し見せるようになったそうです。

賀

正

半衿



1月15日は半衿の日です。

